

文教経済常任委員会懇談会報告書

1 開催日時

令和6年11月1日（金）10時から

2 会場

市役所4階第2委員会室

3 テーマ

八千代市の野菜・果実のブランド化について

4 出席者

(1) 八千代市農業協同組合

組合員（作物別等で構成される部会の部会長及び副部長等）6名
経済部長

(2) 八千代市議会文教経済常任委員会

委員長	菅野文男	副委員長	高橋秀行
委員	大澤一治	委員	小澤宏司
委員	高山敏朗	委員	花島美記
委員	若松博		

5 開催の趣旨

本市の農業における生産性の向上等の観点から、上記テーマで八千代市農業協同組合（以下「農協」という。）と意見交換を行い、今後の委員会活動等の参考にするため懇談会を開催した。

6 懇談会の概要

初めに出席者による自己紹介を行い、次に、農協から、農協の活動内容及び本日のテーマについて、以下のとおり説明された。

農協は市内の農家、組合員に対する支援を最大の目的としている団体。組合員が行う販売、資材・肥料等の購入などを量的な有利性を得るため農協が請け負っている。また、個々の農家で生産・販売をすれば品質は不均一となり、本日のテーマであるブランド化にはなりづらく、統一された規格で品質の管理をしている。

続く意見交換では、委員から、ロボット技術やICT等の情報通信技術を活用して農作業の効率化、生産性の向上等が期待されるスマート農業について、八千代の現状等に関する質問があり、今後進展していくが、現状では補助金があっても導入費用の負担が大きいとの回答であった。

学校給食関連では、地産地消、買取保証、食育といった内容で意見交換があり、安心・安全な学校給食等を進めていくためには、市、農家、農協が一緒になって取り組んでいく必要があるとのご意見があった。

また、有機農業に関しては、農薬を使う栽培に比べて収穫量が落ち、色・形などの見た目が悪いといった理由により市場での価値が低くなりがちで、有機農業に取り組んだ結果、うまくいかなかった場合の所得保証といった問題もあるとのご意見があった。

八千代市園芸作物産地化推進モデル事業補助金を活用した新たな園芸作物の栽培等へのチャレンジについては、地域の土、気候にあった栽培しやすいものでないと長く続けられない。ブランド化できる園芸作物は農家の方々の経験の中から出てくるもので、当該補助金など、いろいろなものが合わさっていけば何か生み出せると思っているとのご意見があった。

その他、新規就農、農地中間管理機構及び農地転用などに関する意見交換も行われた。

7 懇談会を終えて

今回の懇談会は、農協の方から、農業に関する現場のご意見等を伺うことができ、また、農協の方も委員に農業の現状を知ってもらう機会となったことから、双方で再度の懇談会を希望する声があった。

